復興庁
Reconstruction Agency

つなおと

第72号

平成31年2月27日発行
宮城復興局気仙沼支所
気仙沼市笹が陣3－5
気仙沼市シルバー人材センター内

2/16㊏ 三陸沿岸道路（歌津～小泉海岸 ＆ 本吉津谷～大谷海岸）が開通 !! ～つながりゆく復興道路～

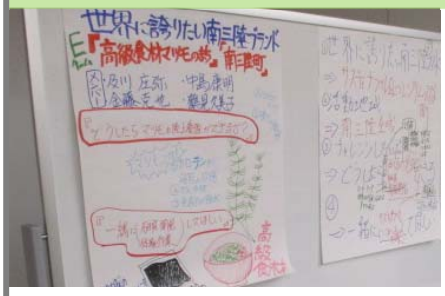
木遣（きや）り唄を披露される気仙沼人力車木遣會の皆様

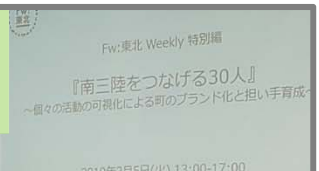
平磯虎舞を披露される地元の皆様

パーキングに設置されたトイレ

２月１６日、三陸沿岸道路の歌津IC～小泉海岸IC間（10km）、本吉津谷IC～大谷海岸IC間（4km）が開通しました。小泉海岸ICまでの延伸により、気仙沼市が仙台市と初めて高速交通体系で結ばれ、南三陸町内では全通しました。これにより、仙台へのアクセスが便利になるばかりでなく、災害時の緊急輸送路や地域産業振興の後押し、沿岸地域全体の復興への貢献、救急搬送時の安定性・速達性向上が期待されます。また、３月２１日には唐桑小原木IC～陸前高田長部IC間の開通も予定されております。

2/5㈫ 「新しい東北」官民連携イベントの開催
～「これまで」と「これから」～





２月５日、南三陸町役場「マチドマ」を会場に、「新しい東北」官民連携イベント「南三陸をつなげる30人」フューチャーセッションが開催されました。南三陸町内で活動する地元事業者など約20人と大手企業や宮城県など10人で構成される「南三陸をつなげる30人」が、震災後に取り組んできた活動について情報共有し、自分の取り組みたいテーマや課題で内容が近い人同士でテーマグループをつくり、活動内容を具体化するワークショップを行いました。地元事業者が進めたい活動や地域課題が可視化され、新たな連携を構築する一歩となるイベントとなりました。

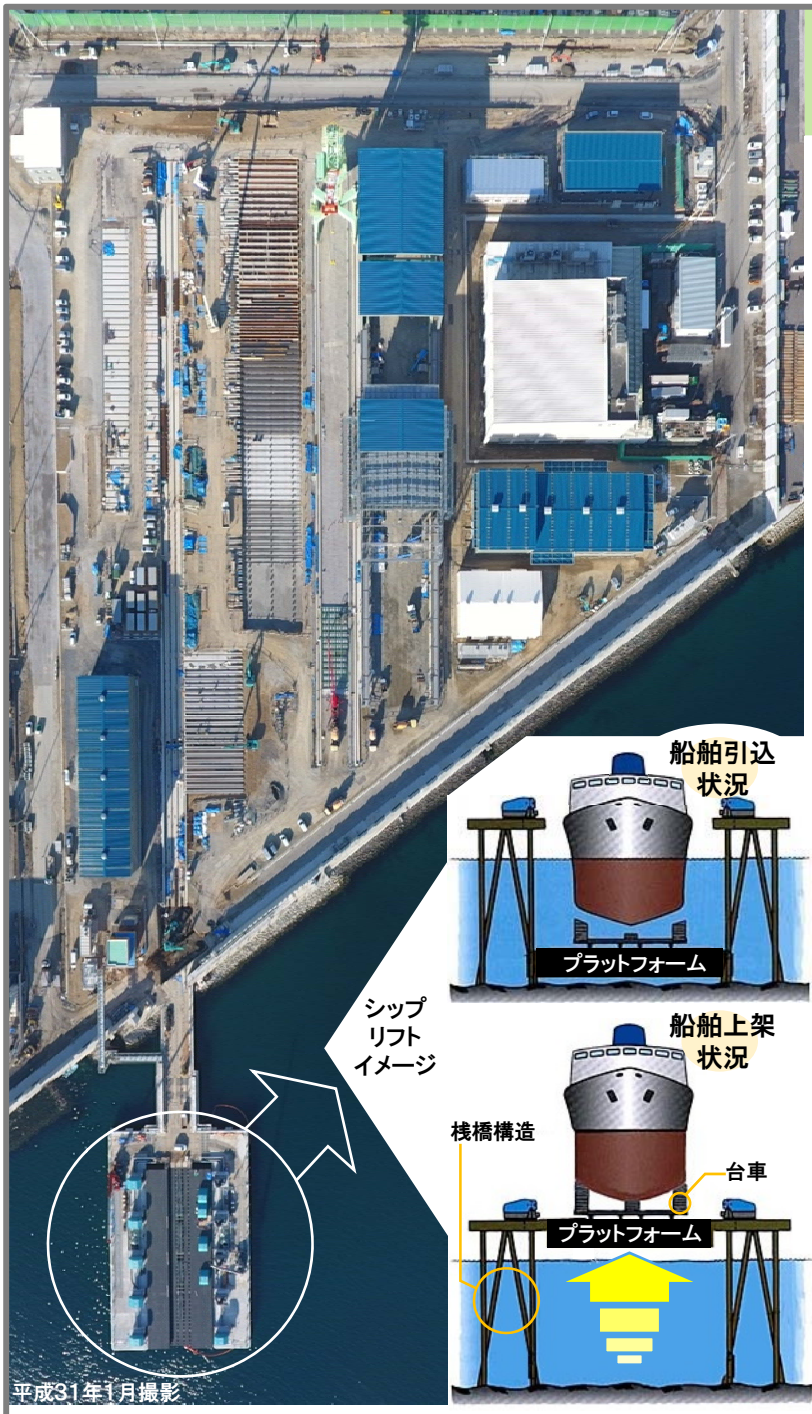
2/17㈰ 「新しい東北」復興・創生顕彰を受賞
～ 全国と南三陸町の絆を育んだ語り部バス ～

２月17日、平成30年度「新しい東北」復興・創生顕彰において、全国132件の中から選ばれた10団体の取り組みに対して、渡辺復興大臣から賞状が授与されました。当支所管内では、震災年から「語り部バス」の運行を続けている南三陸ホテル観洋が、震災の風化防止と交流人口の増加に伴う地域活性化への貢献が評価され、受賞されています。

今回受賞された10団体の皆様。右から4人目が南三陸ホテル観洋の阿部憲子女将。

2/10㈰ コミュニケーション美人になるためのコツ講座
特定非営利活動法人　ウイメンズアイ

２月10日、特定非営利法人ウイメンズアイ主催による「コミュニケーション美人になるためのコツ講座」が、「気仙沼市市民福祉センターやすらぎ」で開催され、７人の市民が参加しました。産業カウンセラー・コミュニケーションスキルアップ講師の中村雪子先生を講師として、職場や家庭でより良い人間関係をつくるため、「伝える」をテーマとして相手を非難せず、爽やかに伝える言い方や表現方法を学びました。ワークショップは、笑いや共感する場面もあり、リラックスした雰囲気で行われました。ウィメンズアイの講座では、託児も行っており、子育て中のお母さん方が気軽に参加できます。



～ 進む震災復興 ～
【朝日町造船団地】

気仙沼漁港は、全国に13か所ある特定第三種漁港の1つに指定されており、気仙沼市魚市場の平成30年の水揚げ状況では、生鮮カツオの水揚げで22年連続日本一を達成するとともに、数量で全国9位、金額では全国8位となるなど、国内屈指の漁港として全国に広く知られています。

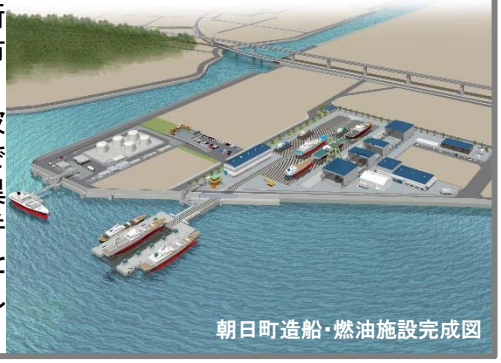
この気仙沼漁港の水揚げを支える産業の一つとして、気仙沼漁港に水揚げする漁船等の建造や修繕を担う「造船施設」があり、気仙沼市では、津波においても造船機能を維持できる造船団地を朝日町に計画し、平成31年春の稼働開始に向け整備が進められています。

これまでは気仙沼湾の湾奥の浪板地区に集中して立地していましたが、東日本大震災により甚大な被害を受け、基幹産業である水産業の復興にも大きな影響を及ぼすこととなりました。このことから、気仙沼市では他地区に施設を移転・集約する構想を立ち上げ、整備が進められてきたものです。新たに完成する朝日町の造船施設は、隣接する燃油施設と併せて面積約5.8ha。国の復興交付金事業の「津波復興拠点整備事業」により市が造成した土地に整備が進められています。地盤の高さはTP3.2mまでかさ上げされ、TP7.2mの防潮堤で守られるなど、防災面にも対応した施設となっています。

造船施設の海上桟橋には、国内3例目となるシップリフト式による上架施設が整備されています。最先端のこの設備は、海上で船をエレベーターのように垂直にリフトアップさせた後、造船場内にレールで移動できるもので、これにより防潮堤の内側で作業できるようになります。これまでの施設で対応できる船のサイズは800トンが限界でしたが、約1,700トンまでの船の建造・修繕の対応が可能となります。また、新たな施設での稼働開始に向けて、施設整備と並行して運営体制の基盤を強化しました。

平成25年4月に市内の関連事業者が気仙沼造船団地協同組合を設立し、造船施設の集約化・新施設の整備に向けた検討を開始しました。その結果、水産業・造船業を取りまく様々な環境変化に対応していくため、平成27年5月に浪板地区にある造船4社と関連会社3社により新たに「(株)みらい造船」を設立。平成30年4月にはこの新会社に従来の造船4社が統合することで、あらたな造船会社として事業を開始しました。この「みらい造船」が朝日町造船施設の運営主体となります。造船施設は平成30年度末までには完成し、その後、浪板地区から設備移転作業などを行い、平成31年6月から稼働する予定としています。最先端の技術を活用した新たな造船団地における新会社での造船業の船出。気仙沼市の水産業を支える産業の一つとして、今後の発展が期待されます。

(株)みらい造船様にお話をうかがいました。「新造船所は防潮堤等で津波対策が実施されており、日本一安全であると思う。シップリフト方式は国内で3例しかなく、船主さんからも興味をもっていただいている。また、船底に異常がある船も容易に上架することができるので修繕の幅は広がった。合併して難しいこともあるかと思うが、百年先を見据えたことを一緒にできることは楽しみでもあり、「チーム気仙沼」の一員として水産業の活性化に貢献していきたい。」とのお話を頂きました。


朝日町造船・燃油施設完成図

◆支所長コラム

日一日と日が長くなってきており、少し明るい気持ちになります。春はもうすぐですね。さて、今月は少しかたくなりますが、産業に関する復興支援施策についてお話をします。２月１日、気仙沼市から申請があった利子補給金に関する復興推進計画が認定されました。当計画では赤岩港地区に冷凍食品製造工場を新設する事業に対し、指定金融機関が必要な資金を貸し付ける場合に利子補給金の支給をするものです。また、津波浸水地域を対象に企業立地を促す支援事業として津波・原子力被災地域雇用創出企業立地補助金（製造業等立地支援事業）が活用されているところですが、こちらは２月１８日より第９次の公募開始となりました。（これまで宮城県では２２２の事業が採択されております。）復興庁では他省庁とも連携し、様々な支援策で市町と協力して課題解決にあたっているところです。これからもよろしくお願い致します。（吉エ三）

復興関連イベント

各地で開催される
復興イベントをご紹介します。

【3月9日(土),10(日)】 ～南三陸町～ 20代語り部ガイドによる被災地バス案内

東日本大震災からまもなく8年。
当時中学生、高校生で被災した現在20代の若者が語り部として案内します。

●時間　10:00～11:30／13:30～15:00(両日とも)
●定員　19名
●料金　1,500円（大人・子供と同一料金）

南三陸町観光協会　0226-47-2550

【3月10日(日)】 ～気仙沼市～ 震災復興語り部

震災当時の様子や、現在の状況など、様々な知識をもった語り部ガイドが「海と生きる」気仙沼の今を伝えます。

●時間　14:00～15:00
●料金　一般・高校生・中学生　1,000円
　　小学生　500円，未就学児　無料

気仙沼市観光サービスセンター　0226-22-4560

開通した三陸沿岸道路
（大谷地区）

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。
復興庁HP（http://www.reconstruction.go.jp/）⇒ **宮城復興局** ⇒ **気仙沼支所だより「つちおと」**

【編集後記】
◆気がつけば2月も終わり。雪でなく雨が降ってきます。
春まであと1か月。

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）
復興庁 宮城復興局　気仙沼支所
電話　0226－23－5301、FAX　0226－23－5310